

見極め Discernment

AIフルーエンシーの3つめの力。AIの成果物・プロセス・ふるまいを思慮深く評価する「品質管理」の力です。描写の裏返しにあたります。

見極めの3つの要素 Three components

成果物の見極め Product Discernment

AIが作った出力の質を評価する。正確さ／読み手と目的への適切さ／筋の通り・構成／要件への合致／価値。

プロセスの見極め Process Discernment

AIがどう答えに至ったかを評価する。論理の誤り・注意のすき・一点への固執・堂々めぐりに注意。

ふるまいの見極め Performance Discernment

やり取り中のAIのふるまい・伝え方を評価する。応答性・効率・あなたのニーズへの合い方。

主なポイント Key points

- ・見極めは描写の裏返し。2つは対になって「指示→評価」の循環をつくり、質を高めます。
- ・どんなに高度なAIでも、推論ミス・事実誤認・予想外のふるまいがある。人の判断が「安全装置」です。
- ・問題を見つけたら、何が・なぜ問題かを伝え、改善案を示し、指示や例を直す（＝多くは「もっと良い描写」）。

本資料は、本家コース「AI Fluency」の見極めレッスンの内容にもとづく、非公式・日本語のまとめ（KAKEHASHI）です。Copyright 2025 Rick Dakan, Joseph Feller, and Anthropic. CC BY-NC-SA 4.0 ライセンスのもとで公開。